

平成28年度「全国学力・学習状況調査」 結果についてのお知らせ

4月19日に6年生を対象として行われた「全国学力・学習状況調査」の結果が文部科学省から9月末に公表されました。その後、本校の児童の学力や学習の状況を把握・分析するとともに、一人一人の児童の学習の課題を把握して指導改善につなげるための取組等を検討してきました。

そこで、本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。(裏面参照)

なお調査の結果は、対象が6年生に限られており、教科も国語と算数に限られています。したがってここに示す結果は児童の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。

文部科学省では、全国的に子供たちの学力状況を把握する「全国学力・学習状況調査」を平成19年度から実施しています。

全国学力・学習状況調査の概要(平成28年度) [文科省HPより]

■調査の目的

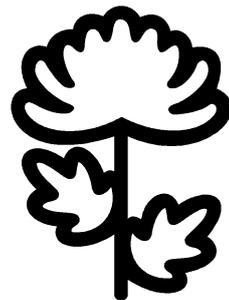
- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

■調査の対象学年

小学校第6学年、中学校第3学年

■調査の内容

- 教科に関する調査(国語、算数・数学)
 - ・主として「知識」に関する問題 (A問題)
 - ・主として「活用」に関する問題 (B問題)
- 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査



平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果概要

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語・算数の平均正答率はA・B問題ともに全国と同程度で、学習の定着状況は概ね良好です。
- ・国語では、「話すこと・聞くこと」（目的に応じて質問したいことを整理するなど）の領域や記述式の問題において正答率が少し上昇し、これまでの学習の成果が見られました。
- ・算数では、「量と測定」（三角形の底辺と高さの関係、単位当たり量など）の領域がよくできていました。記述式の問題においても改善傾向が見られましたが、引き続き力を高めていきたいところです。
- ・高学年になるに従って個人差が出てきていることがうかがえました。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

よい傾向がみとめられる項目

- ・「毎日同じくらいの時刻に起床・就寝する」「朝食を毎日食べる」「宿題をする」など、良い生活習慣が付いています。また、「家の手伝いをよくしている」「家の人と学校の出来事を話す」という児童が多く、家族とよく触れ合っていることがうかがえます。
- ・「家で自分で計画を立てて学習する」「平日に1時間以上学習する」と答えている児童が多く、家庭学習の習慣が定着してきています。
- ・よく本を読み、学校や地域の図書館をよく利用しています。

課題となる項目

- ・1日当たりのTV・DVD等の視聴時間やゲームの時間が全国に比べてやや長かったです。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

◆学習環境を整え、学ぶ心を育てます。

- ・聞く・話す等の学習ルールを身に付けさせ、学習に集中できる環境をつくります。
- ・道徳の授業や学級・学校の行事等を通して、自分のことや自分と人との関わりについて考え、自己肯定感やソーシャルスキルを育てます。

◆考える力、表現する力を育てます。

- ・朝学習の時間を活用して算数・国語の問題に取り組み、基礎的学力を養います。
- ・「自分の考えや思いを伝え合う活動」を取り入れた授業を展開し、「話す・聞く・考える」力をつけます。
- ・ノート指導を充実し、「理由を明らかにして自分の考えを書く」活動をしていきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・「家庭学習の手引き」を活用し、子どもたちが自ら学習に取り組めるよう声をかけてあげてください。
- ・生活リズムを整え、ゲームやテレビ、スマホ等を使う時間のルールを決めて守らせましょう。
- ・世の中や地域で起きていることに関心を持ち、親子で話し合う時間をとりましょう。
- ・親子でいろんな本を読んだり、地域の図書館や博物館等を利用したりして、子どもの関心の幅を広げてあげてください。